

多文化共生のまちづくり ～在日外国人が住みやすくするためには～

熊本県立宇土高等学校

要旨

現在、在日外国人の割合が増加してきており、外国人の来日理由は技術実習生として日本に来日していることがわかった。しかし日本語がわからず日常生活で困っていることが多いので、宇土市の外国人労働者の人口が少ないと考えた。そこで私達は異文化コミュニケーションの問題について注目した。異文化コミュニケーションの問題の解決方法は日本語を学べる地域で行える外国人向けのイベントを行うといいと考えた。このイベントにより互いに交流を図りながら問題解決ができると考え、宇土市の在日外国人の増加に繋がると考えた。

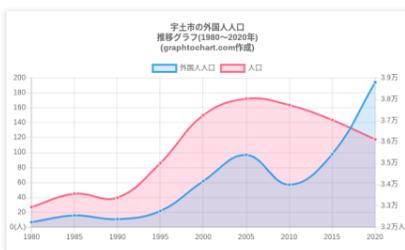
1. 目的

現在、日本では在日外国人の割合が年々増加してきている。また、生活ルールの違いによりトラブルになってしまう事がある。そこで、私達が在日外国人との交流できるイベントを考えることで宇土市をよりよいまちにできると考えたため。

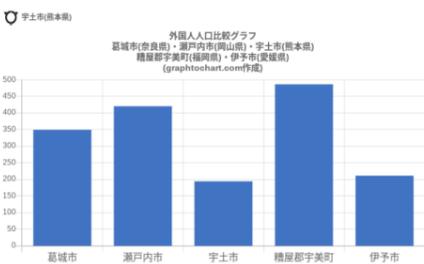
2. 方法

ネットで調べる
資料で調べる

3. 結果



左のグラフから分かるように在日外国人は年々増えていることがわかった。在日外国人の在日理由として、技能実習生として日本に来日していることがわかった。更に、グラフから年々増加しているということもわかった。



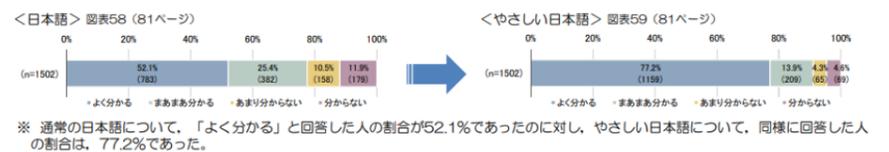
右のグラフは、在日外国人が多い市と宇土市の在日外国人の比較を表している。ここから分かるように宇土市の在日外国人の人口は増えてはいますが、他の市に比べると少ないことがわかる。

宇土市の在日外国人の人口が少ない理由として、異文化コミュニケーションでの問題があると考えた。そこで、在日外国人が日常生活で困っている事として、

- ・病院で診察を受けるとき
病状をうまく伝えられない、受付でうまく話せない
 - ・公的機関に相談するとき
通訳が配備されていない、されているところが少ない
 - ・公的機関が発信する情報を入手するとき
多言語での発信が少ない、スマートフォン等で利用できる公的機関が作成したアプリでの発信が少ない
- ということがわかった。

4. 考察

そこで私達は、異文化コミュニケーションで生じる問題に注目した。はじめに、異文化コミュニケーションとは、自分と異なる価値観やバックグラウンド(出身地、年齢、性別、環境)を持つ人と交流を図ることである。先程の結果からわかるように、在日外国人は日常生活で困っていることが多く挙げられた。そこで私達はやさしい日本語に注目した。



このグラフからもわかるように、通常通常の日本語よりもやさしい日本語ののほうがよく分かったと答えた人が多い事がわかる。また、技能実習生として来日している在日外国人は、日本で仕事・生活する上でコミュニケーションが必要になるので日本語を学べる宇土高校で行える外国人向けのイベントを行うといいと考えた。

イベントの内容としては、日本語があまりわからない在日外国人に、私達宇土高校生徒がその地域に向かい、コミュニケーションを通してやさしい日本語を教えるといった内容です。ALTであるライアン先生に通訳をしてもらいながら教えるというイベントを考えた。イベントを行うことで、在日外国人の方は日本語を学ぶことができ、私達はネイティブの英語に触れることができると考えた。また、異文化についても知ることができるので、在日外国人の方々が過ごしやすい環境になることで宇土市の在日外国人の人口を増やせるのではないかと結論になった。

5. 感想

今回、私達は高校生でもできるイベントを基準に簡易的なイベントを考えた。しかし、異文化との交流の仕方は他にもたくさんあると考えたため、いろいろな方法を考えて見る必要もあると感じた。また、今回は発案しかできなかったため、実際にイベントを行って利点と欠点を見つけた上で、より良いものにする必要がある不可欠だと思った。

6. 参考文献

- https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/159974_458719_misc.pdf
- <https://graphtochart.com/japan/uto-shi-foreigners-total.ph>
- <https://www.moj.go.jp/isa/content/001342229.pdf>
- <https://asia-creation.org/infomation/2023-02-24-tokuteiginou-ninzu/>
- <https://ushikubou.com/cross-culture>
- <https://www.hrpro.co.jp/miraii/post-1480>